①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・5＋3，5－2のような2数の加減の計算ができる。

○既習とつなぐ見方・考え方

・乗るは増えることから，たし算で表せることを学習している。

教材研究ノート№1-A-6

≪学習問題≫

≪学習問題≫

おさるさんがトロッコでんしゃに5ひき乗っています。

バナナえきで3びきのりました。

また，ぶどうえきで2ひきのりました。

ぜんぶで，なんびきになりましたか。



主眼

授業計画･実施記録

②見通し：増えて，増えているので，どのように式にすればよいか分からない。

→　乗ってきた順に，式に表すと分かりやすい。

②学習課題：おさるさんが乗ってきた順に式をつくり，数図ブロック動かして，全部で何匹になるか調べよう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究：数図ブロックを動かしながら式をつくり，式のつくり方と計算の仕方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「2つの式と1つの式を比べて，気付くことはないかな？」

→「1つの式の方が簡単に表すことができる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「2回電車に乗ってくるおさるさんを，1つの式にして表してもよいのだろうか？」

→「続いている場面だから，1つの式に表すことができる。」

　「5＋3＋2として1つの式に表しても，計算は5＋3＝8，8＋2＝10と同じ計算をしているからよい。」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・2回のたし算も，1つの式で表すことができる。

・3つの数のたし算は，2つの数のたし算を2回計算したものと同じだ。

⑥定着･活用問題

(1) 次の計算をしましょう。

　①2＋4＋2　　　②4＋3＋3　　　③8＋2＋7　　　④5＋5＋5

(2)式が6＋4＋3になるお話をつくりましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・場面提示では，3枚の絵を時間の経過に沿って物語のように提示し，数量が増加する場面を具体的にとらえることができるようにしたい。

・共同追究では，単に計算の結果が同じになることだけでなく，2つの式と1つの式を比較させることにより，1つの式で簡潔に表すことのよさに気付かせたい。

≪定着・活用問題≫

【板書計画】